現代に息づく伝統芸能

島根県
浜田市

石見神楽

石見神楽は生きている芸能である。
仮面を用いた躍動的な歌舞劇でもある。
先人の所作や手振りを
そっくり真似るのではなく、
舞の理想像を世代に渡って引き継ぎ、
今なお最上の舞を追い求めている。
山陰の小都市・浜田で光り輝く
「芸」の系譜を、
どうかその目で確かめてほしい。

恵比須 ●えびす（蛭子）

えびすの宮を初めて訪れる旅人が宮の神職から祭神の神威について承り、神の姿をこの目にせんと逗留すると、恵比須が現れ、旅人とともに舞を舞う。興に乗じて魚釣りを始めた恵比須は七転八倒の末、めでたく鯛を釣り上げる。

大蛇 ●おろち

高天原を降った須佐之男が出雲国・斐伊川に差し掛かると、八岐大蛇に8人目の娘（稲田姫）を今夜取られると嘆く老夫婦に出会う。須佐之男は酒を好む大蛇に毒酒をもって酔わせた上で戦いを挑み、苦戦の末に切り伏せて大蛇を退ける。この際に刃こぼれを起したのを不審に思うと、大蛇の身体から一振りの見事な刀が出てきた。須佐之男はこの刀を「天村雲」と名づけ、姉・天照に献上することを宣言し、稲田姫と結ばれる。

岩戸 ●いわと

弟神・須佐之男の高天原での乱行に心を痛めた天照が岩戸籠りに入り、世の中が乱れだしたため高天原の神々がこれを嘆く。天児屋根・天太玉の両神が一計を案じ、岩戸の前に天宇津女を招く。宇津女が岩戸の前にて「神遊び」し、剛力無双の天手力男の力によりついに岩戸は押し開かれ、再び高天原に天照の威光を取り戻す。

記紀（古事記・日本書紀）関連演目ピックアップ

神迎 ●かんむかえ

古代中国では四方の星の形から四方に名づけて、東を青龍、西を白虎、南を朱雀、北を玄武といい此の四星を四神ともいう。またこの天象に地相が相応するのを四神相応といい此の神々をお迎えする神楽である。

八十神 ●やそがみ

因幡の白兎を背景に敷き、兄である八十神と末弟・大国主が八上姫のもとへ求婚に向う道中での謀殺劇を神楽にしている。

八十神からの言い寄りを拒みに拒んだ八上姫が、慕う大国主の名を口にする。これに立腹した八十神は謀略をめぐらせ、大国主を亡き者にしようと試みるがあえなく見抜かれ、決戦の末散る。

鹿島 ●かしま（国譲り）

高天原から出雲の大国主のもとに降伏を迫りに武甕槌と経津主が現れる。大国主は高天原への服従を承諾するが、息子である事代主・建御名方両名にも尋ねるよう返答する。建御名方はこれを承服せず決戦となるが、あえなく破れ降参。葦原中国を譲りわたすこととなる。

八衢 ●やちまた（千衢）

天孫・邇邇芸が天下る際に、宇津女が先行して道中を進んで行くと、道中に鼻の高い神が待ち構えていた。怪しむ宇津女にその神が「自らは天孫の道中の無事を祈って迎えに参じた猿田彦」と身分を明かし、無事誤解が解ける。力を合わせて高千穂への水先案内をすることになる。

五穀種元 ●ごこくたねもと（杵）

須佐之男の怒りに触れ無残な姿になった保食神から種々の食料がほころび出た。そのうち粟・稗・麦・豆と米の五穀を広く植え、民の食料となすようにとの天照の詔を受けた天熊大人は、その旨村長に伝え申して人民に触れを出させる。人民は鋤をもって耕作をはじめ、やがて実りを迎える。一同は喜びの新嘗祭を迎えて餅をつき、円満のうちに舞は収まる。

神武 ●じんむ

神倭伊波礼琵古（神武天皇）と随身が、九州高千穂から東征を開始。上陸した紀の国（和歌山県）で参拝中に、大和で乱行を働く長髄彦一味と遭遇。激戦の末、辛くもこれを降す。

道がえし ●ちがえし（鬼返し）

鹿島に祭られる武甕槌が異国より飛来した魔王を撃退しに赴く旨を宣言、乗り込んできた鬼との問答に入る。決戦に至るも易々と魔王は退けられ、武甕槌に命を請う。武甕槌はこれを認め、九州高千穂の峰に住まいして人を食らわず米を食せば許すと放免された魔王は改心し、喜びの舞を舞い納める。

塵輪 ●じんりん（人倫）

仲哀帝の御世、異国から翼を持つ悪鬼に悩ませられる人民を救うべく帝自ら立ち上がり、臣下・高麻呂に襲来を知らせよと下知する。やがて黒雲に乗って現れた日本征伐将軍「ぢんりん」との激戦に至るが、神通の弓矢をもってついにこれを平らげる。

熊襲 ●くまそ

日本童男命が勅命により九州の熊襲平定に向う。熊襲猛が手下を連れて宴を催して酔い伏すと、舞姫に変じていた日本童男が正体を現してこれを破る。武勇に嘆じた熊襲猛から「タケル」の名を授かり、これを機に「日本武尊」を名乗る。

日本武尊 ●やまとたけるのみこと

熊襲平定を終えた日本武尊が、父帝から引き続き東国平定の詔を受けて吉備武彦を伴い旅たつ。道中戦果を祈りに伊勢神宮へ参ると、斎宮を勤める伯母・大和姫から宝剣「天村雲」を授かり、東国へ下る。

待ち受ける東夷の兄弟が強敵との応戦について首領を交えて詮議し、鹿狩りと騙して大将・日本武尊を焼き討ちする策に出るも露見、あえなく返り討ちにあう。